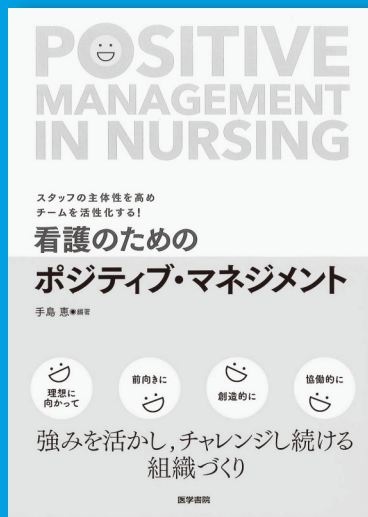


書評

スタッフの主体性を高め
チームを活性化する！
看護のための
ポジティブ・マネジメント



- 編著：手島恵
- A5判／208頁
- 定価：本体 2600円＋税
- 医学書院

評者

虎の門病院看護教育部 管理看護師長
福家幸子

自組織の強みや宝を見つけて 活かすための指南書として 座右に置きたい 1冊

ポジティブの方がネガティブよりよいに決まっている。できることなら常にポジティブでありたいと誰もが漠然と願っているのではないか……本書を読む前は、ポジティブという言葉についてこの程度の認識しか持っていなかった。

しかし、本書の冒頭にある「前向きに、ポジティブにもものを見るためには、必ず、意思と努力、そして行動が必要」という言葉を目にした瞬間、一気に引き込まれると同時に、看護管理者として襟を正したい思いを抱いた。

ポジティブにマネジメントを実践するためには、自身の生来のポジティブな性格に頼るだけでは心もとないし、組織が自然とよい方向に向かうのを待つだけでもいけない。「管理者のプロフェッションとしての高い意識と自己規制」(p.7)を求められていることが分かった。

自身の思考がポジティブに変化

本書の第Ⅰ章、第Ⅱ章では、ポジティブな視点で管理することの意義や理論が述べられている。豊富な文献の裏付けを基に、さまざまな専門用語がとても分かりやすく解説されており、知的好奇心をくすぐられる。

過去の自分の管理実践を、成功例も失敗例も思い出しながら、これらの章を何度か繰り返し読むことで、看護管理者としてポジティブであることの重要性が身にしみて分かってきた。

そして、読み進めるほどに自分の思考がポジティブに変わっていくことを感じつつ、「では、どうすれば実際にポジティブな組織をつくれるのか？」という次なる疑問が湧いてくる。

第Ⅲ章ではその疑問に答えるかのようには、さまざまな組織開発手法が紹介されている。ワールドカフェ、アクション

ラーニングなど、名前を聞いたことはあるが、詳細については知らなかった手法ばかりである。これらが簡潔に分かりやすく解説され、自組織でこの手法を導入したら、どのようになるだろうとワクワク想像しながら読み進めた。

さらに、第Ⅳ章では、これらさまざまな手法を組み合わせる実際に組織変革に取り組んだ実践報告が6例紹介されている。「うちでもあるある！」と自施設に重ね合わせてうなずきたくするような事例から、困難な状況の克服に挑むチャレンジングな事例まで、ポジティブに組織を変革するためのさまざまな工夫とアイディアが詰まっていた。現在そして未来の自分の管理実践の参考になるような6つの事例に刺激を受けた。

ポジティブなビジョンを持つために有用な 1冊

看護の世界では、問題解決思考に代表されるように「問題点は何か」という発想から入ることが多い。問題解決思考はもちろん大切かつ必要である。

しかし、管理の現場において、問題→解決→新たな問題→解決のサイクルに忙殺されていると、本来の管理の目的を一瞬見失ってしまうことがある。「自組織の強みや宝を見つけて活かし、どういう組織にしたいか」「どういう仕事ができる集団にしたいか」というビジョンを持ち続けられる管理者であるために、本書を指南書として手元に置き、適宜ひもときながら、今後も看護管理に取り組んでいきたい。また、同じように看護管理に関わる仲間たちにも紹介したい本である。